2016年　韓国国際ジュニア
本大会・遠征レポート

遠征期間　：2016年　8月11日（木）～8月21日（日）
第1戦　：2016　KETF　KOREA　INTERNATIONAL　JUNIOR　CHAMPIONSHIPS　SERIES 1 / Yeoncheon
第2戦　：2016　KETF　KOREA　INTERNATIONAL　JUNIOR　CHAMPIONSHIPS　SERIES 2 / Yanggu

8月11日（木）
出発
金浦空港・仁川空港

日本を飛び立ち、いざ韓国へ！！
金浦空港と仁川空港に無事到着後、送迎バスに乗り、第1戦会場の「ヨンチョン」に移動しました。
選手達は移動時間を楽しみながら過ごし、初対面の選手達も急速に仲良くなっていきました。

宿泊ホテル

第1戦会場の宿泊ホテルに到着。ホテルにチェックインした後、ホテル近くの食堂で初めての本場の韓国料理（プルコギ定食）を食べました。また、大会期間中の朝食はライスバーガーやホットサンド、昼食は試合の合間にお弁当を摂りました。

8月12日（金）～
8月16日（火）
第1戦スタート

第1戦、ヨンチョン・スタジアムコートにて大会が行われ、日本チームは毎日早朝練習を行い、試合に臨みました。12才以下は力の差があり上位に行くことは出来ませんでした。しかし10才以下では女子ダブルスで優勝＆ベスト4に入ることが出来ました。言葉が通じない中でも自己主張ができ、精神コントロール力の高い選手が上位にいけたと感じました。

レセプション パーティ

8/13（土）レセプションパーティーに各国選手とともに招待されました。
国別に分かれ着席。市長や連盟会長等の挨拶から国別のチーム紹介があり、乾杯、食事という具合に進みました。ビュッフェスタイルパーティで、マナー良く食事をとりながら時間が経つに従い、他の国の選手達と一緒に写真を撮ったりゼスチャーを交えて会話をしたりと、テニスを通じて素晴らしい交流ができて本当に感動しました。

サービスコンテスト（第１戦）

８月１４日（日）朝9時00分から試合の前に全選手によるサービスコンテストが行われました。
選手達はコートに集まり、我先にとボールを持って準備していました。
ターゲットに見立てたボールの缶にサーブを当てると賞品がもらえるという、非常にユーモアのある楽しいイベントでした。日本人選手も沢山の選手が様々な賞品をゲットしていました。

交流マッチ練習

トーナメントに負けた選手たちは、練習試合を各国の選手達と合同で行いました。
初対面の外国人選手との試合経験をたくさん積めたことは非常に良かったと思いました。
また、カテゴリー別の番外トーナメントも行いました。選手たちは本大会さながらの集中力で頑張りました。

社会観光（ヨンチョン）

8月15日（月）の午後は、連盟主催の社会観光に行きました。『全谷先史博物館』に行き、韓国の石器時代等の3D映像を鑑賞しました。その後、バス移動して『新羅敬順王之陵』に行きました。

表彰式＆移動 宿泊ホテル

8月16日（火）第1戦の表彰式後、第2戦会場のある「ヤング」へバスで移動しました。第2戦会場の宿泊ホテルに到着。ホテルにチェックインした後、ホテル内の食堂で毎日の夕食を摂りました。

8月17日（水）～8月21日（日） 第2戦スタート

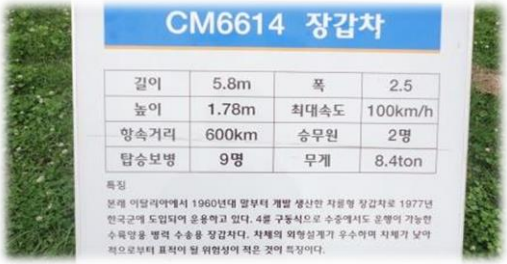
第2戦の会場「ヤング」では、3回戦まで試合会場が2会場に分かれて行われました。各会場にて早朝練習を行い試合に臨みました。2大会目ということで慣れてきたのか、多くの選手が初戦を勝ちあがりました。日本チームは、10才女子シングルス準優勝＆ダブルス優勝＆ベスト4に入り表彰されました。

サービスコンテスト（第２戦）

８月１８日（木）朝9時から全選手によるサービスコンテストが行われました。
選手たちは目を輝かせて真剣にサーブを打っていました。ここでも日本人選手達は沢山の商品を受け取り喜んでいました。

社会観光（ヤング）

８月２０日（土）の午後は、連盟主催の社会観光が行われ、北朝鮮を眺めることのできる『乙支（ウルチ）展望台』に行きました。北朝鮮側は撮影禁止なので韓国側での写真撮影となりました。
さらにバスで移動し、北朝鮮が侵略の為に掘ったトンネルの内、ここヤング（揚口）にある、『第4トンネル』に行きました。トンネル内は撮影禁止でした。第4トンネルに突き当たるまでのトンネル道は徒歩。実際の第4トンネル内ではトロッコに乗り、３０秒ぐらい移動しました。
軍事国境線に近く、韓国軍兵士がたくさんいたこともあり物々しさと緊張が伝わってきました。



総　評

今回参加された選手の皆さん、本当にお疲れ様でした。
2大会を連戦するツアーを海外で経験する事は、なかなか出来る事ではありません。この遠征を通して経験したことは、これからの人生にとっての糧となり、また生涯の思い出となると確信しています。

最後になり恐縮ですが、このような貴重な体験をお与えくださった保護者の皆様、ご協力頂いた関係者の皆様に心より御礼申し上げます

2016韓国国際ジュニア大会・引率ディレクター　山本誠二